

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成25年7月)

～現状判断、先行き判断ともに低下が止まらず～

- 景気ウォッチャー調査・7月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が4ヶ月連続で低下、先行き判断も5ヶ月連続の低下となった。
- 現状判断は、例年よりも気温が高めに推移したことで、季節商材は販売好調となったものの、百貨店のクリアランスセール開始が6月に前倒しとなり、7月の売上を押し下げる結果となったことなどから、DIの低下が進んだとみられる。また、諸物価の上昇が客足を鈍らせたり、収益の悪化を招いている影響もあると考えられる。
- 先行き判断については、消費増税の動向はまだ不透明ながらも、住宅を中心に駆け込み需要への期待が高まっている一方、諸物価の上昇が節約意識の強化や、消費マインドの低下につながるといった懸念や、価格転嫁の見通しが立たないことへの不安などから、DIの低下につながったとみられる。
- 7月に本格化することが予想された食品関連の値上げについては、スーパーの動向等を見る限り、まだ大きな動きとはなっていない。値上げへの厳しい反応を不安視する声も多いことから、今後も店頭価格には大きな変化が出てきにくい(値上げを控える)可能性もあるとみられる。

○ 「スーパー」関連のコメント(現状・先行き)

① 現状

な や や 良 く 変 わ ら な い	スーパー(店長)	・少し高価な商品の調子が上向いている。以前に比べると、少し高価な果物、新鮮な野菜、新しい商品や、珍しい商品の動きが良い。その一方、低単価品を選ぶ目は厳しいなど、景気が上向いている感はない。少し高価な商品と、安い商品を組み合わせることで、支出が増えないようにしている。
	スーパー(経営者)	・今月に入ると、上旬から中旬は参議院選挙の影響からか、客の動きがおかしかった。後半以降も単価の低い物しか動かない状況である。
	スーパー(店長)	・来客数は増えているが、単価は低めの推移となっている。店舗の増加に伴って買い回り客が増えているため、単価が伸びない。
	スーパー(店長)	・気温の状況などの外的要因もあり、上向きとは言い難い状況が続いている。
	スーパー(店長)	・普段の買物は販売量や単価も変わらず、購買動向にあまり変化はみられない。ギフトや夏休み需要で一部に堅調な商品もあるが、全体的には横ばい傾向である。
	スーパー(店長)	・原料価格の値上げによる関連商品の価格変更により、客の買い控えがみられる。広告商品も若干の値上げのため、販売量が減っている。安いだけでは売れず、今後は価値のある商品の販売が必要になってくる。
	スーパー(経理担当)	・梅雨明け直後の猛暑により、季節品を中心に販売が上向いたが、7月中旬以降はゲリラ豪雨に見舞われるなど、天候が不安定になり季節品の動向が一服している。天候や気温に大きく左右されるなど、消費には力強さが今一つ感じられない。
	スーパー(広報担当)	・6月の好調は季節品が前倒しで売れていただけで、今月はペースダウンしている。ただし、トータルでみれば大きな変化はない。
	スーパー(社員)	・例年以上に気温の上昇が急であり、実用衣料や冷菓などの動きが良くなっている。ただし、昼間の気温の高い時間帯は、来客数が例年よりも落ち込んでいるため、全体に伸び悩んでいる店が多い。

変わらない	スーパー（販売担当）	・来客数の動きをみていると、広告初日の目玉商品を買うために、かなり短時間に来客が集中するが、それを買い回ると他の商品を買わずにレジに並ぶため、午前中は来客数が増加するものの、トータルで見ると変化はない。
	スーパー（企画）	・継続的な客単価、1品単価の上昇はみられない。
	スーパー（管理担当）	・従来と変わらず、購買点数の増加がみられない。
なっている やや悪く	スーパー（店長）	・今月に入り、前月までの反動もあるものの、衣料品や住居関連品が非常に苦戦している。本当に必要な物以外は、購買意欲が感じられない。
	スーパー（企画担当）	・来客数が前年比で97%あるのに対し、売上は95%と開きがある。

② 先行き

やや良くなる	スーパー（社員）	・食品部門は生鮮品などの素材商品が落ち込み、そうざいなどの加工済み商品の販売増が続いているが、今夏は暑さもあって調理済み商品が大きく伸びている。この傾向はこれからも大きく変わらないため、このトレンドに合わせて消費拡大につながると期待している。
	スーパー（企画）	・来年の消費税増税に向かって、いったんは消費が拡大する。
変わらない	スーパー（経営者）	・近くに競合店が多く、客がその日によって行く店を変える動きが今後も続く。
	スーパー（経営者）	・良くなっている部分と悪くなっている部分の差は明確になってきているが、全体としては変わらない。
	スーパー（店長）	・ボーナスはさほど増えていないが、物価自体は緩やかに上昇している感が強い。ガソリンや小麦関連も上昇が徐々に進んでいるため、財布のひもは固くなる。値上げの発表も多く、今のところは過剰な反応こそないが、不安定感が高まっている。
	スーパー（店長）	・今月は、昨年の季節商材の好調とは逆に、梅雨の早期終了による販売の前倒し傾向もあり、特に食品以外は厳しい環境にある。今後も天候を含む要因や、不安定な経済状況を考えると、景気の回復を期待するのは非常に困難である。
	スーパー（店長）	・参議院選挙で与党が圧勝した結果、どうなるかという様子見の動きとなっている。昨年よりもボーナスが増えた人ばかりではないため、景気が良くなるイメージがない。
	スーパー（店長）	・参議院選挙から間もないこともあるが、何かが大きく動き出す気配は感じられず、急な展開は望めない。小売店の店頭では、しばらく変化はない。
	スーパー（店長）	・電気料金の値上げによって収益が減少している。夏のピークに向けて電気使用量は更に増加するが、それによるコスト増をカバーするだけの収益の見込みは立っていない。
	スーパー（経理担当）	・消費税増税がスケジュールどおり実施されるかに注目が集まるが、予定どおりの場合、2～3か月後には増税が決定する。比較的少額な日用品の購入が、増税直前までは節約の対象となる可能性があるため、売上の伸び悩みが懸念される。
	スーパー（広報担当）	・個人消費については、電気料金の値上げや原料価格の値上げ、野菜価格の高騰などへの警戒感が強く、弱含みである。景気回復の足取りは必ずしも順調とは言い難い。
	スーパー（販売担当）	・競合先との価格競争もあり、主力商品の値段を下げて販売している。そのため、買上点数は昨年を上回っているが、売上トータルは下回っている。
やや悪くなる	スーパー（開発担当）	・円安のため、原油や小麦価格などが値上がりしている。消費者の収入が増えていないため、大きな影響が出る。
	スーパー（店長）	・相次ぐ値上げ報道や、給料が増えない状況では、購買意欲の上昇は望めない。
	スーパー（店長）	・食品以外は当市内で購入しない。特に、65歳未満の人は顕著である。
	スーパー（企画担当）	・競合店の出店により、現状よりも更に厳しくなる。
スーパー（管理担当）	・原料や燃料価格の高騰、天候不順による物資不足も予想され、楽観できる状況にはない。	

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 11				12				13																
		月 7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
現 状 判 断	近畿	49.3	48.1	46.5	44.1	44.9	48.0	44.8	47.6	52.0	53.3	48.2	43.2	45.9	44.2	43.4	40.8	43.5	49.8	53.2	56.8	61.3	59.6	58.7	54.9	53.2
	(全国)	52.6	47.3	45.3	45.9	45.0	47.0	44.1	45.9	51.8	50.9	47.2	43.8	44.2	43.6	41.2	39.0	40.0	45.8	49.5	53.2	57.3	56.5	55.7	53.0	52.3
先 行 き 判 断	近畿	48.0	46.4	47.5	46.6	46.3	44.4	47.3	51.3	49.1	51.2	46.9	48.1	47.0	44.6	41.9	45.0	45.7	53.6	59.8	61.2	60.7	59.6	58.1	53.5	52.9
	(全国)	48.5	47.1	46.4	45.9	44.7	44.4	47.1	50.1	49.7	50.9	48.1	45.7	44.9	43.6	43.5	41.7	41.9	51.0	56.5	57.7	57.5	57.8	56.2	53.6	53.6